



馬耳東風

コロナ禍で避けていた親族との会食を久しぶりに再開した。話題提供のつもりで牛や鹿は胃が4つもあるよと話したところ、イルカ好きの孫から「イルカも4つの胃があるよ」と聞き、ビックリした。獣医師でありながらそんなことも知らないのかとお叱りを受けそうだが、イルカの解剖を学ぶ機会を持たなかったからと頭をかくしかない。直ぐに国会図書館へ行き、2020年出版の「イルカの解剖学」を紐解いてみた。本書ではイルカの胃は、3つの区画に分かれていると明確に記載されているので、その一部を紹介する。第一胃（前胃）は、餌をすり潰す役目で、第二胃（主胃）には腺上皮があり胃液を分泌する。第3番目の区画は細長い管状で幽門胃と呼ぶ。幽門胃の終端の幽門括約筋のところで胃が終わる。バンドウイルカの成獣で胃の容積は、それぞれ3L, 2L, 1.5Lで、牛の第一胃がずば抜けて大きいとは異なっている。なお、幽門胃の先は十二指腸であるが、その始めの部分が膨大しており、十二指腸膨大部と呼ぶ。一見して胃の一部と勘違いされやすく、イルカは4つの胃を持つとの説になったものと思われる。

本書には、このような説が言われる理由を脚注に記載している。それによると、イルカの十二指腸膨大部にはそれ自体に括約筋のような構造があって、普通の十二指腸とは区別され、かつ、イルカの中（マイルカ）には総胆管と膵管の終末部が合流して十二指腸膨大部に開口するものがあるが、普通は膨大部以降の十二指腸に開口するからとのことである。

イルカとクジラ（鯨類）は、ほ乳類としては例外的に

完全に水中生活に適応した動物である。鯨類は、形態学的及び分子生物学的な特徴から、歯のあるクジラ（ハクジラ亜目）とヒゲのあるクジラ（ヒゲクジラ亜目）に分ける系統分類が定着している。イルカは、シャチやイッカク等とともにハクジラ亜目に属する。鯨類の先祖は、約6,000万年前に生きていた偶数の蹄を持つ陸生ほ乳類と言われている。近年のDNAを使った遺伝的な分類で偶蹄目とクジラ目は近縁であることから今では鯨偶蹄目とされている。イルカと牛は、同じ先祖から進化してきたので、イルカが複数の胃を持つことに納得できる。

さて、医師が診療できるのは人のみであるが、獣医師法では獣医師が診療すべき動物は飼育動物と規定されている。飼育動物とは一般に人が飼育する動物を言うが、個々の動物が現に人に飼育されているか否かを問わず、人が飼育し、または飼育し得る動物の種類全般を指すと解釈されている。したがって、われら獣医師は、全ての動物を対象に勉強しなければならない。一方、大学での教育では、解剖学モデル・コア・カリキュラムを例に挙げれば、牛・馬・豚・犬・猫・ウサギ・鶏のみが対象動物である。魚については魚病学で魚類の解剖・生理学を学ぶだけで、イルカやクジラを含めその他の動物については独習となる。

自分の不勉強を棚に上げて本文を書いたが、学生時代に使った教科書である家畜比較解剖図説に「複胃は偶蹄類反芻亜目の全部、…鯨目等のものに見る」との一文を見付け、汗顔の至りである。教科書の大切さを痛感するとともに、大学卒業後も絶えず勉強し続けるべきと反省した次第である。

(平)